

第 13 回 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨

1. 開催日時 : 令和 7 年 3 月 1 7 日(月) 10:00~11:30
2. 場 所 : 尾原ダム管理支所(雲南市木次町平田 211-5)
3. 出席委員 : 石飛 厚志 委員長、作野 広和 委員、村尾 富義 委員、安部 弘美 委員、
山田 幸則 委員代理、石原 和夫 委員代理、稲田 久人 委員、
綿貫 純也 委員、兒子 真也 委員



4. 議事次第
 - 1) 開 会
 - 2) 挨拶 (委員長: 石飛 厚志 雲南市長)
 - 3) 出席者紹介
 - 4) 議 事
 - ① 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
 - ② 令和 6 年度のプロジェクト実施状況
 - ③ 令和 7 年度の実施プロジェクト(案)
 - ④ その他
 - 5) 閉 会

5. 配付資料

- ・ 資料-1 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
- ・ 資料-2 令和6年度のプロジェクト実施状況
- ・ 資料-3 令和7年度の実施プロジェクト(案)
- ・ 記者発表資料（尾原ダムにおいて水力発電施設設置・運営事業の事業者を募集します ～中国地方で初！水力発電施設の新設によるハイブリッドダムの取組みを推進し、地域振興を目指します。～）

6. 議事要旨

1) 挨拶

- ・ 本年度においても尾原ダム水源地域ビジョンに従い、ほぼ全てのイベント・スポーツ大会がほぼ実施されたところである。さくらおろち湖祭りでは5,000人、クレストゲート点検放流イベントでは、2,500人と多くの来場者があった。
- ・ 一方で長者の湯が休館ということで入り込み客数が少し減ったが、そうした中でもさまざまな取り組みができた年ではなかったか感じている。
- ・ 中国地方整備局出雲河川事務所においては、尾原ダムの水力エネルギーの視点からハイブリッドダムの取組み、水力発電設備の設置・運営が検討・計画されている。そうした事業に併せて尾原ダム水源地域ビジョンの一層の推進が図れる材料となればと考えている。
- ・ 第2期前期版 尾原ダム水源地域ビジョンについては、令和5年2月に策定し、事業を推進しているところですが、2030年 国民スポーツ大会もあり、いろんなイベントを通じて、皆様と一緒にこの地域の振興、発展が図られるように皆様方の御協力をお願いします。本日は活発な議論をお願い申し上げます。



2) 議 事

① 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告

- ◆事務局より「第12回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」以降の取組状況について報告があり、承認された。

【事務局説明内容】

- ・第12回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 指摘事項 「イベントにどこから来たかわかるようにアンケートをとってはどうか」については、令和5年度 斐伊川水系水辺環境調査（河川調査等利用実態）業務や3月1日開催した尾原ダムクレストゲート点検放流イベントの時にアンケートを実施。イベントにどこから来たのかを把握した。
- ・「交流人口、関係人口を増やすことが大切」については、さくらおろち湖祭り、トレイルランニングでボランティアスタッフの採用を実施。
また、11月9日（土）さくらおろち湖ボート競技施設において、バイクミーティング・ミュージックフェスティバル・さくらおろち湖 湖上花火・サップ&サウナ体験のイベントを実施。
- ・さくらおろち湖活性化ネットワーク会議
令和5年度は令和6年3月18日に第2回目を開催。
内容 情報共有（CSR活動・さくらおろち湖祭り2024・手づくり郷土賞受賞ほか）・グループワーク（竹林管理・ドッグラン+アジリティー教室・マイカーツアー・環境景観保全・菜の花鑑賞会・干し柿作り）
令和6年度は令和6年11月28日に第1回目を開催。
内容 情報共有（提案事業支援策、魅力発見ツーリズム等案内）・グループワーク（竹林管理・マイカープラン・菜の花鑑賞会・干し柿作り・焼き芋の会）
- ・尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 事務局会議
令和6年度 月に1回の頻度で、事務局会議を開催。尾原ダム水源地域ビジョンのプロジェクト（CSR活動、さくらおろち湖祭り、尾原ダムクレストゲート点検放流イベント等）の企画・運営について話し合っている。

【委員からの主な意見】

- ・イベントを知ったきっかけがケーブルテレビ 3%となっている。ケーブルテレビの広域ネットワークができていますので、行政の協力のもと情報発信をしていけば情報が即飛び交うと思う。
- ・尾原ダムクレストゲート点検放流イベントに来た人が2,500人で、アンケート総数が98人ということであった。もう少しアンケート数を増やしていただきたい。
- ・アンケートを見ると、市外、県外、全国からいらっしゃっているということなので、情報発信をどのように管理していくかが重要。SNS等を含めて、できるだけ発信力を高めていくようなやり方ができればよい。

② 令和6年度のプロジェクト実施状況

◆事務局より令和6年度のプロジェクト実施状況について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・令和6年度コロナ前と同様に、ほとんどのイベントを通常開催した。
- ・さくらおろち湖周辺施設等来訪者は、令和4～6年は減少傾向にある。
- ・トレイルランニング大会、トレイルループランニング大会・ロゲイニング大会、CSR活動、遠足ウィーク、志津見ダムとの連携(コスモス祭りでのパネル展等)、尾原ダム見学の状況、情報発信(SNSによる広報、人気インフルエンサーによる広報(SiphonTV))、奥出雲サイクリング、柿園の維持管理(干し柿づくり)、「名月観賞会」の実施、森林整備・管理(伐採した竹をチップ化し、管理用通路に草押さえとして使用、無償化配布、七夕の笹竹提供)、ビューポイントの発掘(さくらおろち湖写真コンテスト)、尾原ダムの魅力発掘(クレストゲート点検放流)、さくらおろち湖魅力発見ツーリズム、さくらおろち湖 湖上花火の開催、さくらおろち湖祭りなどの取り組みを紹介。

【委員からの主な意見】

- ・資料の2ページのさくらおろち牧場の入れ込み人数が、平成31年、令和2年、3年頃と比較すると、後半が激減している。これは事業方針の大きな方針転換があったからなのか？
- ・来訪者数がイベント等でまとめているが、できれば別々で内訳が分かるといいと思う。もう一つ要望したいのは、アンケートがとれたらいいと思う。
- ・入り込み客数ベースで見ると、かなりの減少傾向にある。いろんな事情があるとは思いますが、周辺人口が減ってきているから、客数の実数は減ると思う。個々の施設とか行事ベースで見ると、思った以上に減っているのので、これをどういうふうに総括していくのかということが大事。
- ・アンケートの結果は非常に有意義で、どこから来たかという情報でいえば、雲南市、奥出雲町、出雲市、松江市で大体半分少々となっている。近いところが多いというのは健全。
- ・どういう戦略で尾原ダム水源地域を見立てるかが重要。これまでの積み上げでいえば、流域重視である。以前、ダムができるまでは3点セットは、どちらかというとマイナスイメージで下流域とやりとりがあった。今、治水事業が完成に近づくと、風が起こらない。下流との連携をもっと強化するべき。

③ 令和 7 年度の実施プロジェクト(案)

◆ 事務局より令和 7 年度の実施プロジェクト(案)について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・ 令和 7 年度の実施プロジェクト(案) 方針(案)の説明。
- ・ さくらおろち湖活性化ネットワーク会議で検討した事業の実施・継続。
(竹林管理、マイカープラン、菜の花鑑賞会、干し柿作り、焼き芋の会)
- ・ さくらおろち湖の活用 さくらおろち湖湖上花火大会を他のイベントとコラボして実施。
- ・ 地域の魅力・資源の発掘・活用 尾原ダム・志津見ダムPR大使を募集し、尾原ダムの魅力等について情報発信していきたい。

【委員からの主な意見】

- ・ ロードレース、自転車競技については、国スポでは、会場が益田となっているが、さくらおろち湖がよいという声がある。
- ・ 自転車やローイングが、上下流交流の一つの切り口になるのではないかと思う。今後、関連団体との連携を図っていくことが重要。
- ・ ボートコースは、ダム湖の一部が法面崩壊したため、スタート地点とゴール地点を入れ替えており、実際のボートコースを公式に使用するためには、B級認定という認定を取る必要がある。いろんな課題を解決するために、国スポまでにとところでB級認定を取っていくように考えている。
- ・ ボートコースについては、限られたスペースで整備を進めていく必要があり、島根県財政課のほうに掛け合って、年度計画を立てて設備の更新をしていく予定。
- ・ 国スポの時、雲南市・奥出雲町の中で宿泊施設がいっぱいになるのではという心配がある。
- ・ 国スポの実行委員会が令和 8 年に立ち上がる予定。

④ その他

◆ 出雲河川事務所より、尾原ダムにおいて水力発電施設の運営事業、設置・運営事業の事業者募集。ハイブリッドダムについて説明を行った。

【説明内容】

- ・ 尾原ダムにおいて、尾原ダムにおいて水力発電施設の運営事業、設置・運営事業の事業者を現在募集している。
- ・ 水力発電施設の運営事業者を、優れた地域振興の提案をした企業・団体にすることになっている。

【委員からの主な意見】

- ・尾原ダムが完成してから 10 年間の間で地域からいろいろなものがなくなっていった。発電事業者には、地元の活性化のための地域振興をお願いしたい。